

## 合同慰霊祭開く

献体の患者さんに祈り捧げ感謝 命の尊厳見つめながら



平成 21 年度の聖マリア病院「合同慰霊祭」が 11 月 2 日、雪の聖母聖堂で行われました。この 1 年間に亡くなられ、病理解剖のために献体していただいた患者さんにご遺族に感謝の気持ちを表し、また生命の尊厳をあらためて見つめなおす機会にと、毎年開かれています。

慰霊祭にはご遺族と聖マリア病院職員、聖マリア学院大学の学生など大勢が参加し、久留米カトリック教会の浦川務神父様の司式のもと、全員で賛美歌を歌い、献花な



どを行って故人の永遠の安息を祈りました。

あいさつでは、病理科診療部長の檜垣浩一医師が弔意を表しながら、「病理解剖は診断と治療の基礎をなすものです。今後も、毎日の医療活動を通して一層の努力を重ねたい」と決意を込めました。

ご遺族代表の方からは「これからも様々な難題に立ち向かい、ご研究に励み、ご努力され、一層の成果を挙げられますようお祈りします」との言葉をいただきました。島弘志院長は謝辞を述べた中で「病理解剖で得られた教訓を明日の診療に役立てます」とあらためて誓いました。

